

## 広島県介護ロボット導入計画

令和 年 月 日(※)

報告担当者

連絡先 (TEL)

E-mail

法人名	社会福祉法人〇〇会		
事業所名	特別養護老人ホーム〇〇	サービス種別	介護老人福祉施設

事業所の所在地について、中山間地域または、過疎地域等に該当しますか。(該当するもの全てにチェック)							
中山間地域である	<input type="checkbox"/>	過疎(一部過疎)地域である	<input type="checkbox"/>	離島地域である	<input type="checkbox"/>	該当しない	<input checked="" type="checkbox"/>

「魅力ある福祉・介護の職場宣言ひろしま制度」の認証を受けていますか。	<input checked="" type="checkbox"/>	はい	<input type="checkbox"/>	いいえ	<input type="checkbox"/>
------------------------------------	-------------------------------------	----	--------------------------	-----	--------------------------

介護ロボットの普及促進のため、施設見学、広報、研修会への参加に関して、ご協力いただけますか。			
<input checked="" type="checkbox"/>	協力します。	<input type="checkbox"/>	都度検討し、状況に応じて協力します。

「LIFE」の利用申請状況	有	「LIFE」のCSV取込機能の活用	有
---------------	---	-------------------	---

介護ロボットの種別	介護ロボット等の製品名	導入(セット)数
④見守り・コミュニケーション	〇〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇セット

通信環境整備を希望する場合、見守り機器の導入状況 (該当する方に○を記入。 既に導入済みの場合、機器名を記入)	<input type="checkbox"/>	・導入済み (機器名)
	<input checked="" type="checkbox"/>	・環境整備にあわせて導入予定

本補助金を利用して、既に通信環境整備を行っていますか。	<input type="checkbox"/>	・行っている (補助金額)
	<input checked="" type="checkbox"/>	・行っていない

【1. 介護ロボット導入又は通信環境整備に至る経緯】	
※何をどう改善するために導入するのかといった、現状、課題及び解決策を明確かつ具体的に記入すること。	
①現状	夜間巡視を2時間ごと合計4回実施しているが、フロアが広く、一度巡回をするにも身体的負担がある。また、巡視の際にご利用者を起こしてしまうこともあり、生活リズムの崩れの原因になることもある。
②課題	職員配置の少ない夜勤において、ご利用者の状況を把握する為には、時間をかけて巡視を行わなければならない。休憩も断続的にしか取ることができておらず、職員の精神的・身体的負担となっている。
③解決策	通信環境を整え、特に課題感の強いフロア全てのベッドに見守りセンサーを導入し、ご利用者の安心・安全の向上と、夜勤スタッフの負担軽減を行い、安心して務めてもらえる環境を提供する。

<b>【2. 介護ロボットの活用計画】</b>		
※1. の課題の解決及び現場に定着するまでの工程について、概ね3年間の計画を具体的に記入すること。（利用する従事者の数、使用頻度等について具体的に記載すること。）		
①1年目	毎日対象フロアの全ての夜勤職員が使用し、機器の活用への抵抗感をなくす。	
②2年目	毎日の機器活用はもちろんのことながら、機器から得られる情報の分析に着手し、まずは現場責任者がケア内容の見直し提案ができるようになる。	
③3年目	機器の活用が当たり前になり、介護記録ソフトとの連携機能も活用し、対象フロアの80%以上の職員が、働きやすさを感じるようになる。	
<b>【3. 介護ロボットの導入により達成すべき目標、期待される効果等】</b>		
※介護従事者の負担軽減による離職防止や人材定着等、導入により達成したい目標や期待する効果について、客観的な数値を用い、できるだけ具体的に記入すること。		
①目標	職員が実際行う巡視の回数を半減させる。利用を開始して3年目の時点で離職者0を達成。 働きやすい職場を作り、働き甲斐を感じる職員を対象フロア内で80%以上にする。	
②効果	施設運営が安定し、ご利用者の受け入れ態勢が整い、ご利用者・ご家族の80%以上の方に、当施設のケアに満足してもらえる。	
<b>【4. 導入を進めるための実施体制】</b>		
※介護ロボット等を活用するにあたって、現場に定着するまでの体制について、役割を具体的に記入すること。		
施設長：導入全体のマネジメント、キックオフ時の発信（導入の目的等）		
介護主任：プロジェクトの統括責任者。プロジェクトの推進。		
リーダー：現場の取りまとめ責任者。現場と責任者との橋渡しをし、課題や要望等を上申していく。		
<b>【5. 導入スケジュール】</b>		
※導入を予定している介護ロボット等について、導入に当たってのスケジュールを具体的に記入すること。		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・5月～7月：現場課題の把握。機器の導入目的の共有とデモ対応。機器の検証を行い、申請。</li> <li>・9月：交付決定が下り次第、機器の導入。</li> <li>・10月～2月：対象のフロアにおいて、夜勤時に対象機器を活用。使用感や課題などを都度吸い上げ、協議・検証を繰り返す。</li> <li>・3月：導入前と導入後の変化について、成果報告を実施。目に見える形で職員に公表し、機器の利用への抵抗感をなくす。</li> </ul>		
<b>【6. 職員への研修について】</b>		
※導入を予定している介護ロボット等の活用に向けて、必要な研修等について回数や期間等、具体的に記入すること。		
定着のための期間として計画している10月～2月の間で、2か月に一度、機器の利用における課題感・使用感を協議し、検証。解決策をメーカーも交え協議し、対策を現場に研修を交え周知。その際、出席することのできない職員に対しては、研修内容を録画し、各自閲覧してもらう。また、扱いに不慣れな職員に関しては、個人任せにすることなく、扱いに長けたスタッフがフォローする。		
<b>【7. 介護ロボット導入に関する効果検証】</b>		
※導入した介護ロボット又は通信環境整備により得られた効果について、どのように検証するのか具体的な方法を記入すること		
2月末に対象の職員向けのアンケートを実施。働きやすさや身体的・精神的負担の度合など、意見を集約し、分析。導入結果を定量・定性評価を行い、目に見える形で職員に公表する。		
<b>【8. 実施要領第3条（3）（ii）の区分①に該当する補助を受ける場合】※該当する場合記入すること。</b>		
※下記要件を満たす場合の補助率は3/4、満たさない場合は1/2となることに留意すること。		
見守りセンサー、インカム、スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトの3点を活用し、従前の介護職員等の人員体制の効率化を行うとともに、利用者のケアの質の維持・向上や職員の休憩時間の確保等の負担軽減に資する取組みを行うことを予定している。	該当する場合 ○を記入	○

従前の介護職員等の人員体制	夜勤〇〇人体制。巡回時ナースコールがなると、詰所まで走って戻ることもしばしば。対応が困難な時は、別フロアの職員に応援を頼むこともある。
見守り機器等の導入後に見込む介護職員等の人員体制	夜勤〇〇人体制。モニターでご利用者の状態を確認することで、訪室回数を減らすことができ、別フロアからの応援を呼ぶ回数が半減している。
利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組み	夜間巡回の回数を1回以上減らす。センサーの情報をタイムリーに確認することができ、同時にモバイルデバイスにて記録を入力する。記録の抜け漏れも防止でき、ヒヤリハットに役立出ることができる。

(※) 日付部分には、書類の作成日を記入すること。